

サーキュラーエコノミー(循環型経済)に 関するアンケート調査結果

令和6年5月
和歌山県 商工労働部
成長産業推進課

アンケート調査の概要

■ 趣旨：

- 県では、「サーキュラーエコノミー」の考えをいち早く取り入れ、地域の特性を踏まえた産業創出や広域的な資源循環ネットワークの構築を目指すため、**昨年10月に「わかやま資源自律経済ビジョン」をとりまとめ、公表した。**
- 本ビジョンの実現に向けた取組の第一弾として、**現状はごみとして廃棄されている使用済みの天ぷら油を回収し、持続可能な航空燃料（Sustainable aviation fuel ; SAF）等の原料へと資源化・利活用する仕組みの構築を目指す**べく、令和6年度から使用済みの天ぷら油の回収実証の実施を予定している。
- 循環型経済の実現に向けては、**消費者一人ひとりの資源循環意識の高まりが重要になる**ことから、この度、**消費者の循環型経済に関する認知度や関心度について現状把握を行うため、アンケート調査を実施した。**

■ 調査時期：令和6年2月13日（火）から令和6年3月31日（日）まで

■ 調査方法：webフォームへの入力による回答

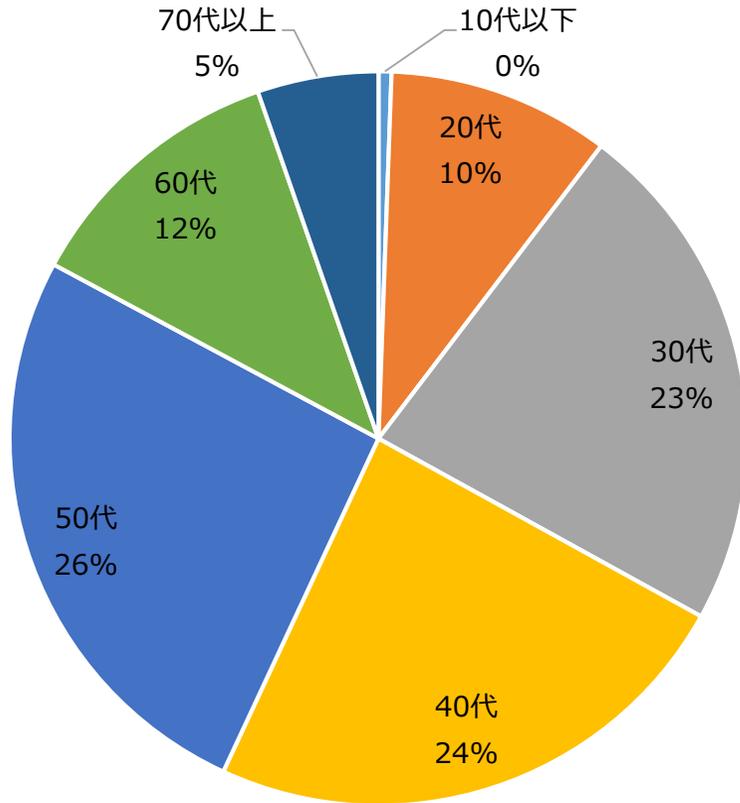
■ 回答件数：1056件

調査結果

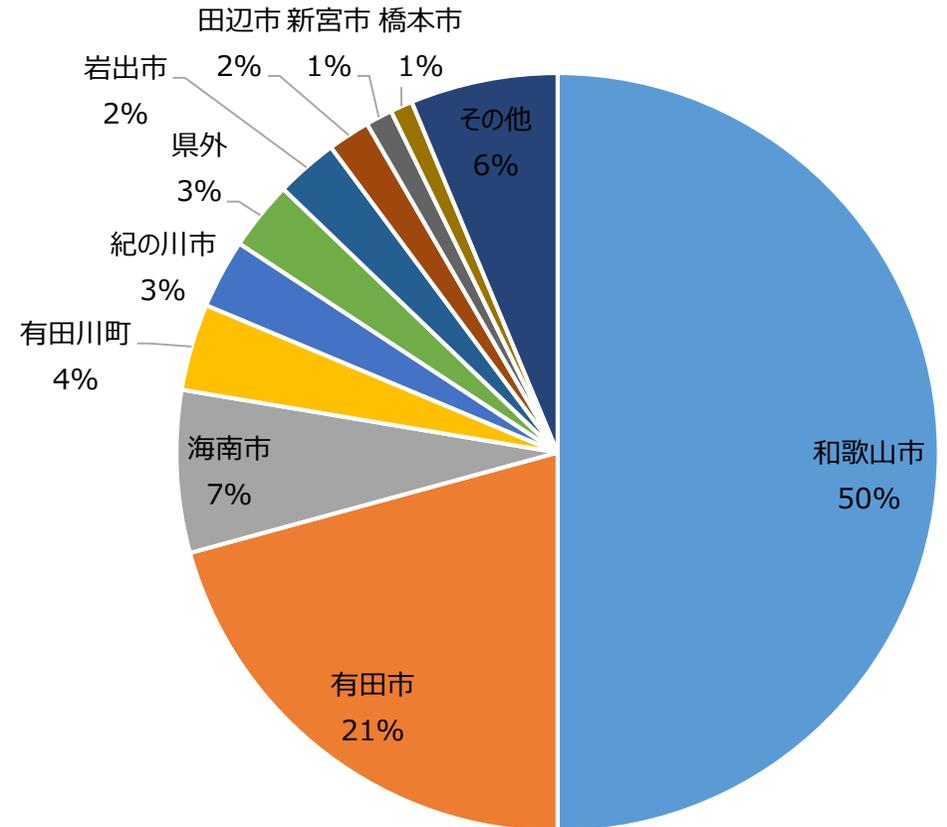
回答者の属性①

- 年代は、**30代、40代、50代**がそれぞれ約**2.5割**であった。
- 居住地は、和歌山市が50%、有田市が21%、海南市が7%で**3市で約8割**であった。

回答者の年齢



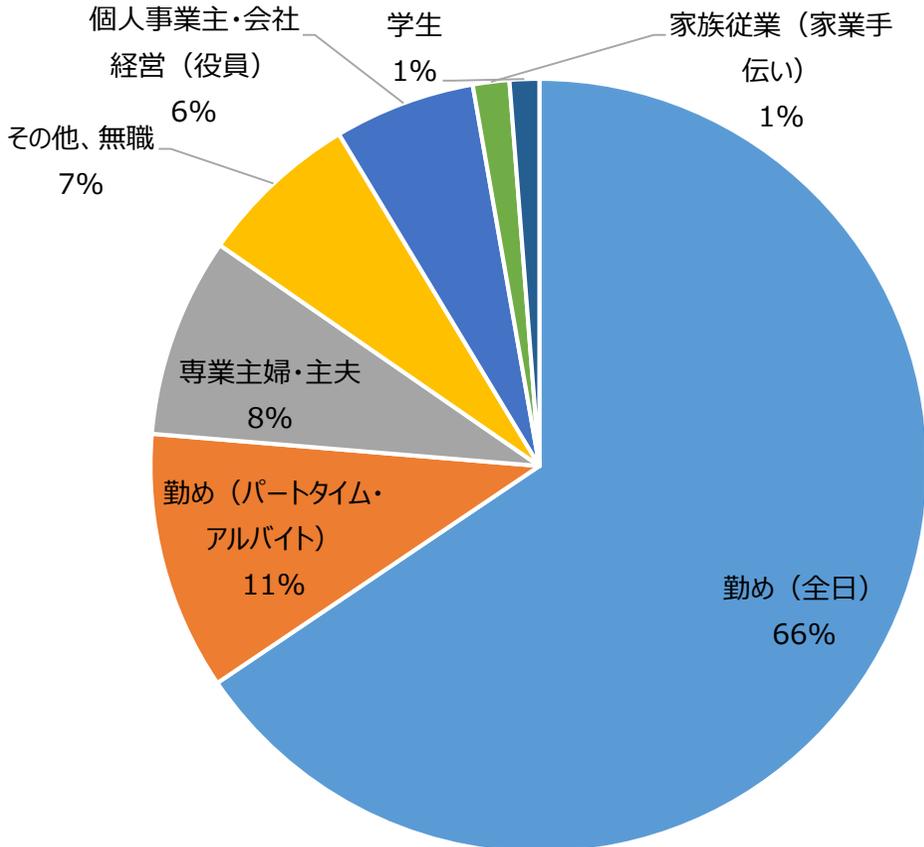
回答者の居住地



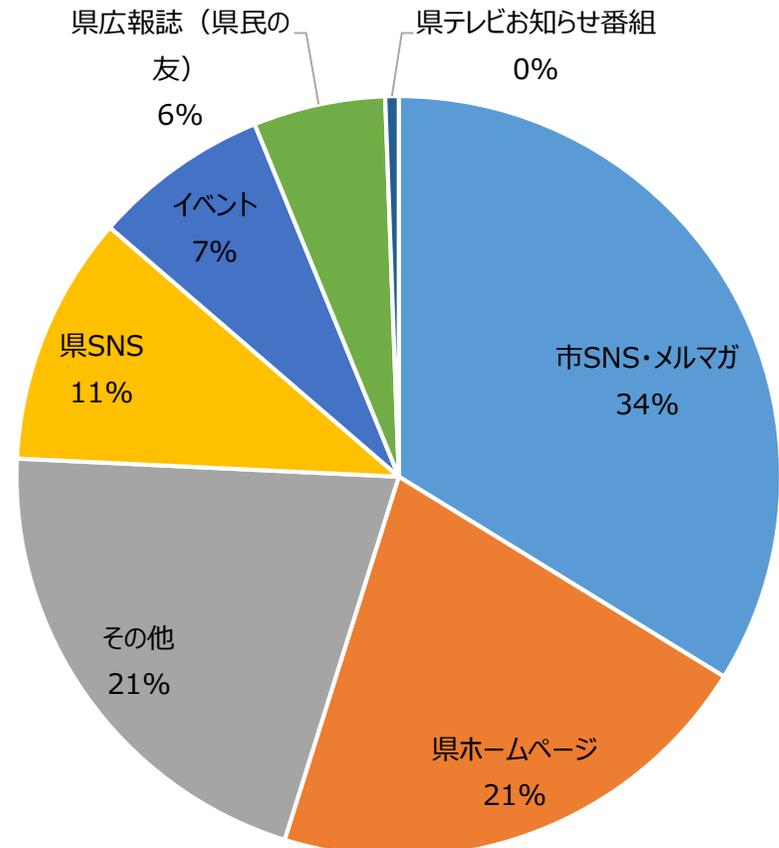
回答者の属性②

- 回答者の職業は、**勤めが約8割**であった。
- アンケートを知ったきっかけは、**市SNS・メルマガが最も多く34%**であった。

回答者の職業



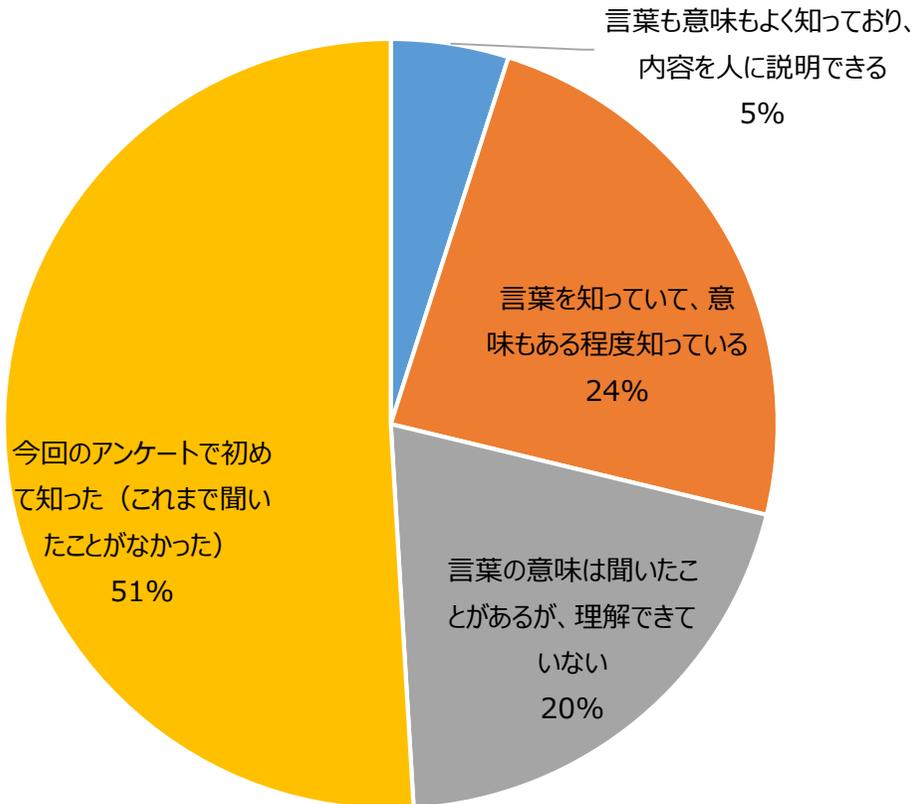
アンケートを知ったきっかけ



循環型経済の認知度に関する設問

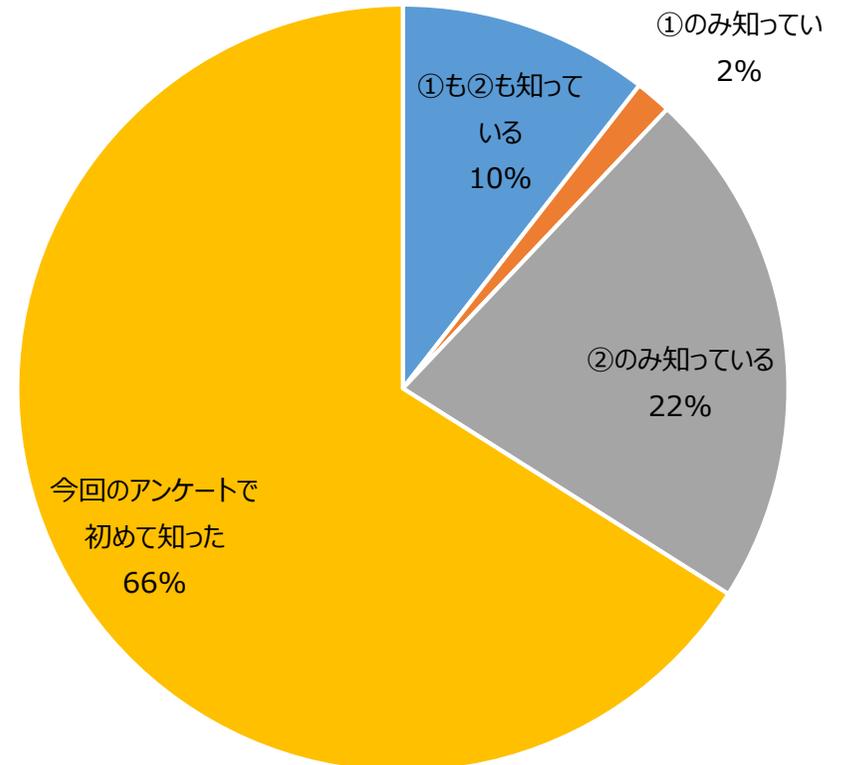
- 「サーキュラーエコノミー（循環型経済）」という言葉を聞いたことがあった人と、これまで聞いたことがなかった人はそれぞれ約5割であった。
- 和歌山県の循環型経済の実現に向けた2つの取組については、どちらも今回のアンケートで初めて知ったという人が約7割（66%）であった。

「サーキュラーエコノミー（循環型経済）」について知っているか



県の「循環型経済」の実現に向けた取組を知っているか

- ①わかやま資源自律経済ビジョンの策定
- ②和歌山県におけるCEの実現に関する包括連携協定

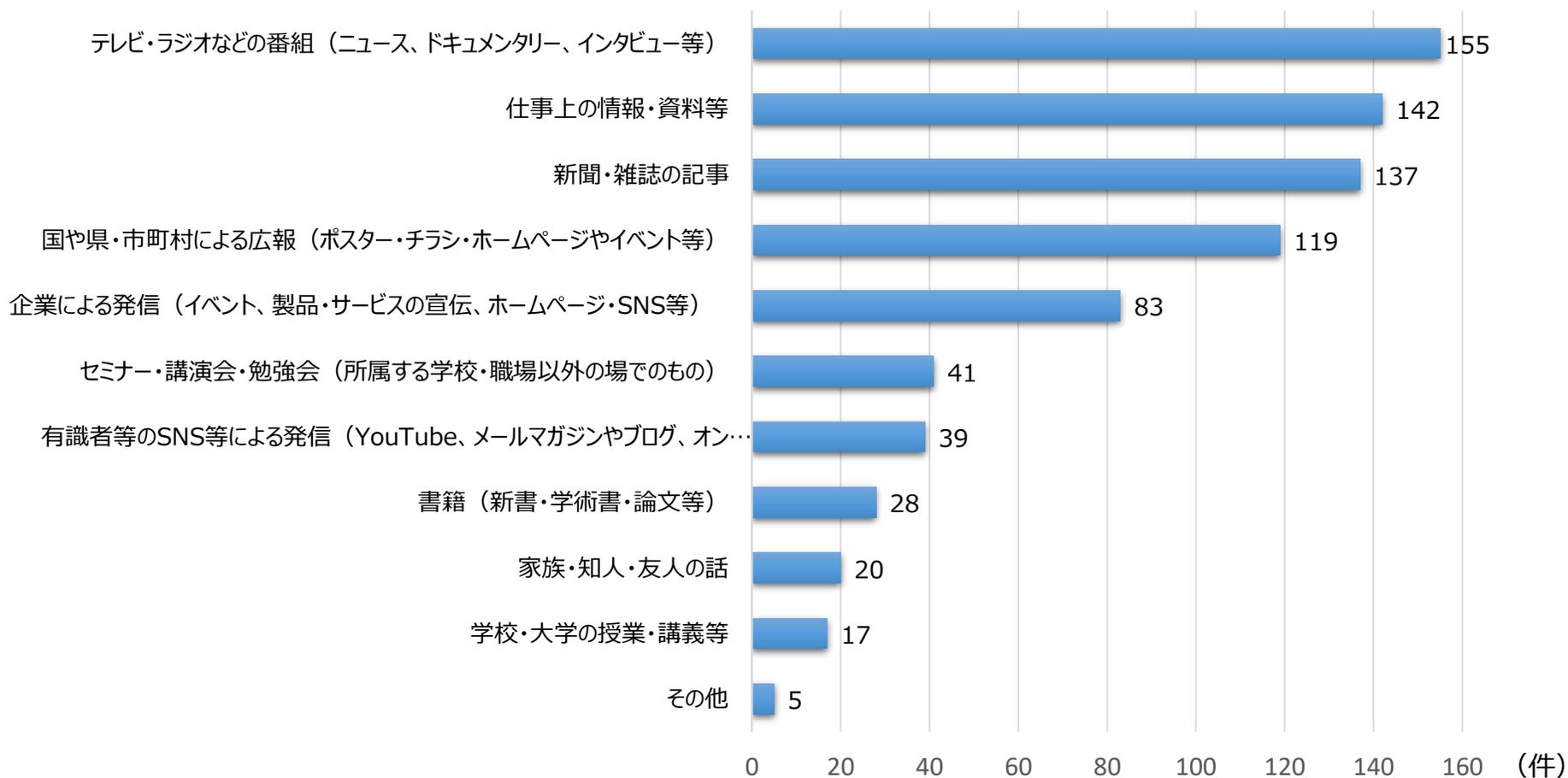


循環型経済を知る上で接した媒体について

- 循環型経済という言葉を知っていると答えた人が知る上で接した媒体については、「テレビ・ラジオなどの番組」が最も多く、次いで多い順に、「仕事上の情報・資料等」、「新聞・雑誌の記事」、「国や県・市町村による広報」であった。

「循環型経済」を知る上で接した媒体

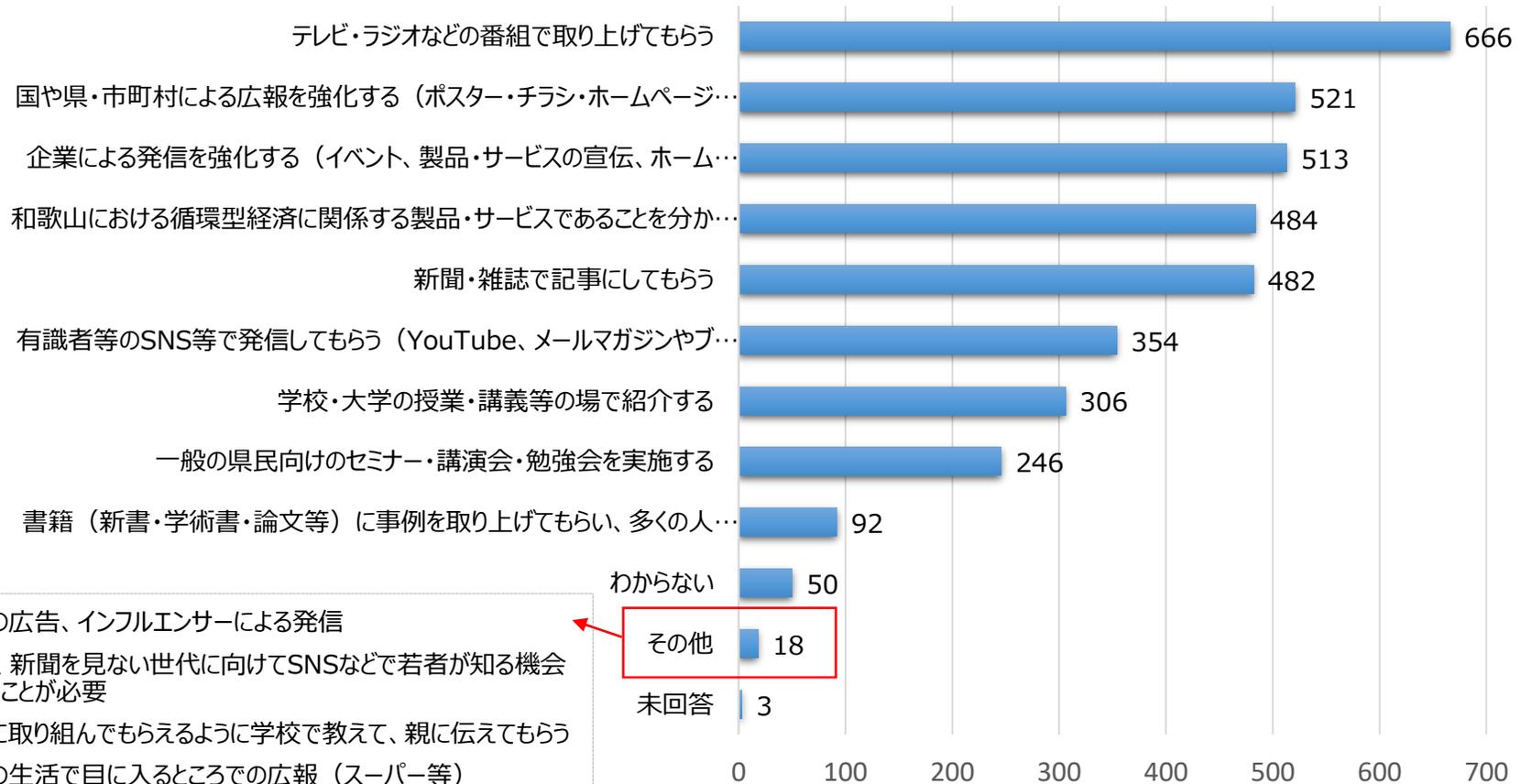
(n=304)



県の取組の理解浸透のために必要なことについて

- 県の循環型経済の取組をより多くの県民に理解していただくために必要なことについては、「テレビ・ラジオなどの番組で取り上げてもらう」が最も多かった。
- その他回答では、「SNSやインフルエンサーによる発信」、「子供に取り組んでもらえるように学校で教える」というような回答があった。

「循環型経済」の取組理解を広めるために必要なこと

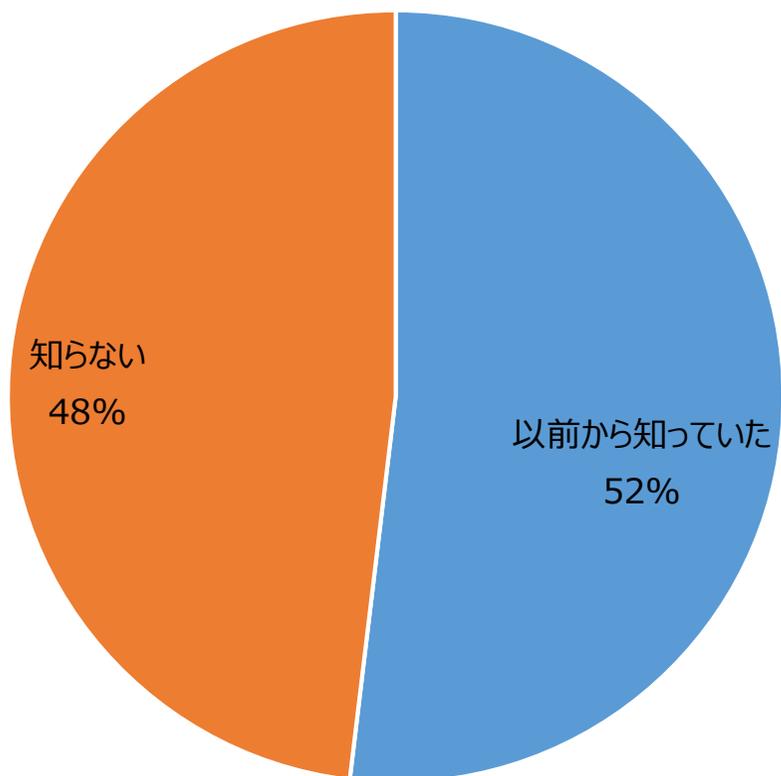


- SNSの広告、インフルエンサーによる発信
- テレビ、新聞を見ない世代に向けてSNSなどで若者が知る機会を作ることが必要
- 子供に取り組んでもらえるように学校で教えて、親に伝えてもらう
- 普段の生活で目に入るところでの広報（スーパー等）

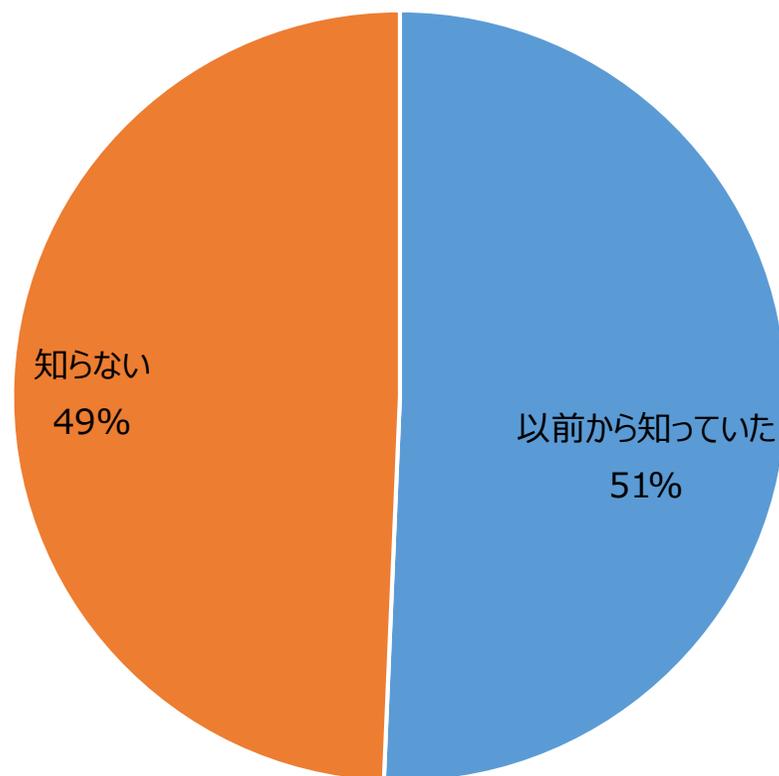
使用済み天ぷら油の利活用に関する設問

- 使用済み天ぷら油が飛行機の燃料になることを知っているかについては、5割の人が知っていた。
- ENEOS和歌山製造所でSAF製造拠点となる計画があることを知っているかについても、5割の人が知っていた。

使用済み天ぷら油が飛行機の燃料になることの認知



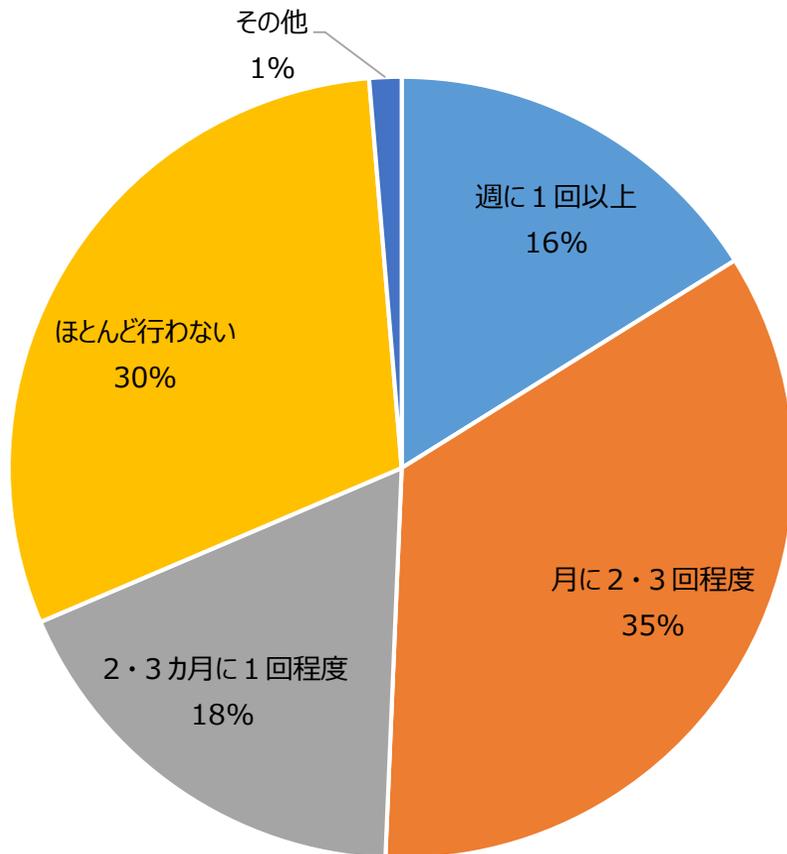
ENEOS和歌山製造所のSAF製造拠点計画の認知



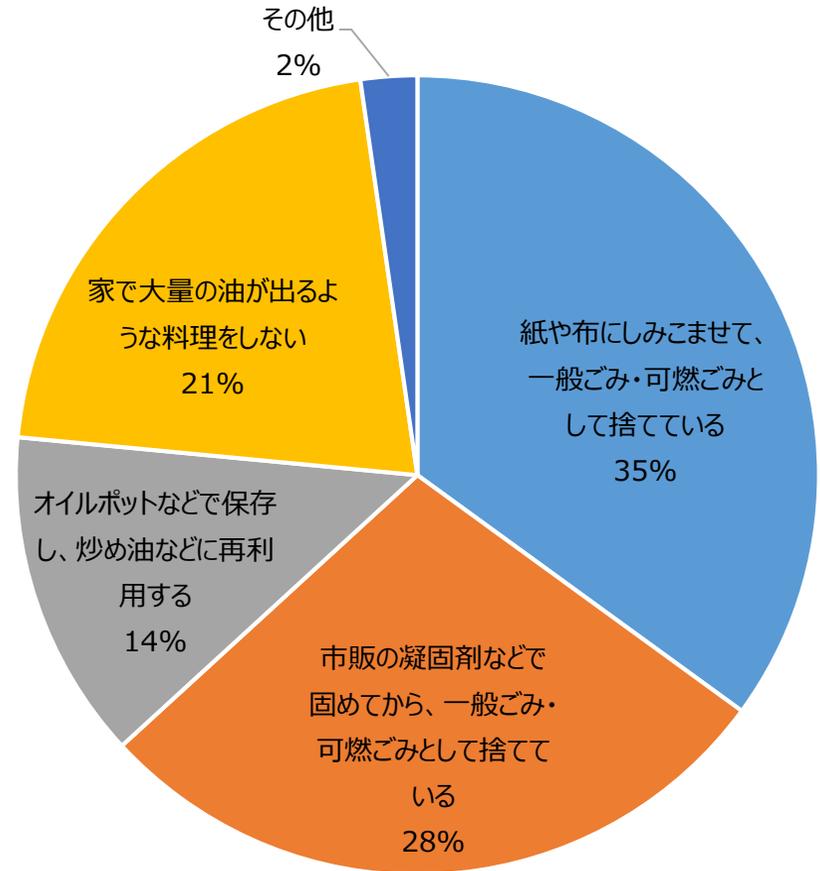
天ぷら油の利用頻度及び処理に関する設問

- 天ぷらなどの油を使う料理をする頻度としては、月に2・3回程度が最も多く35%であった。週に1回以上行うとの回答も16%あった。
- 使用済み天ぷら油の処理に関しては、紙や布にしみこませる、または、凝固剤などで固めるなどして燃えるごみとして捨てている人が約65%であった。炒め油などに再利用する人は、14%であった。

天ぷらなどの油を使う料理をする頻度



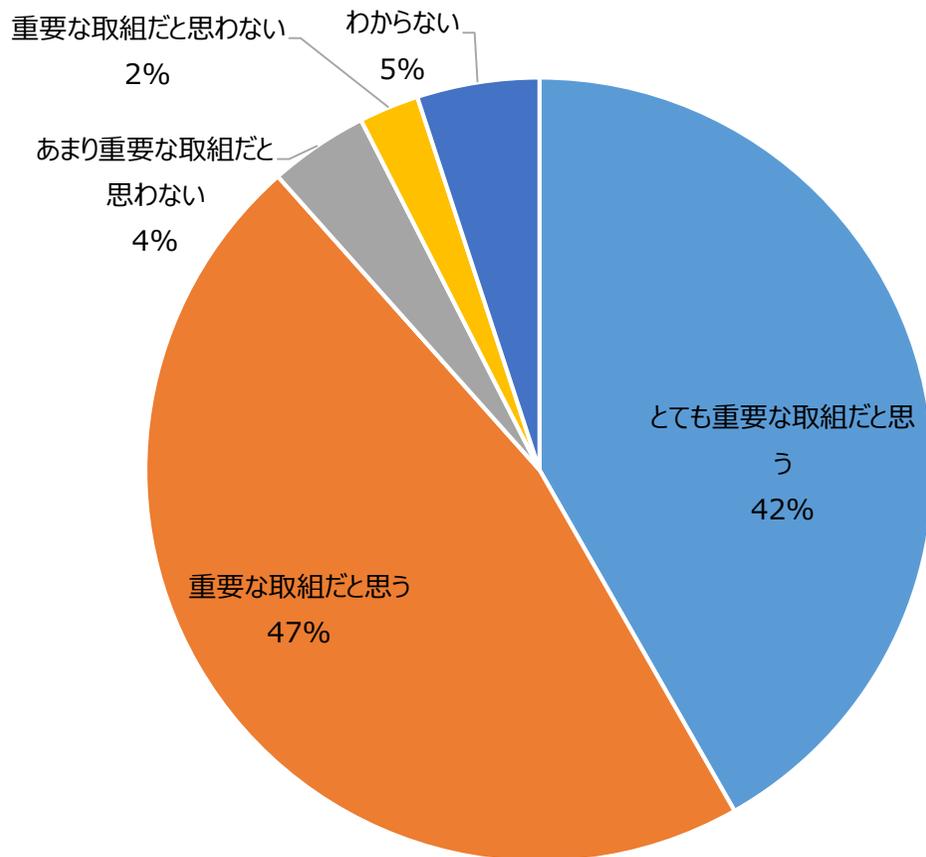
使用済み天ぷら油の廃棄／リサイクル方法



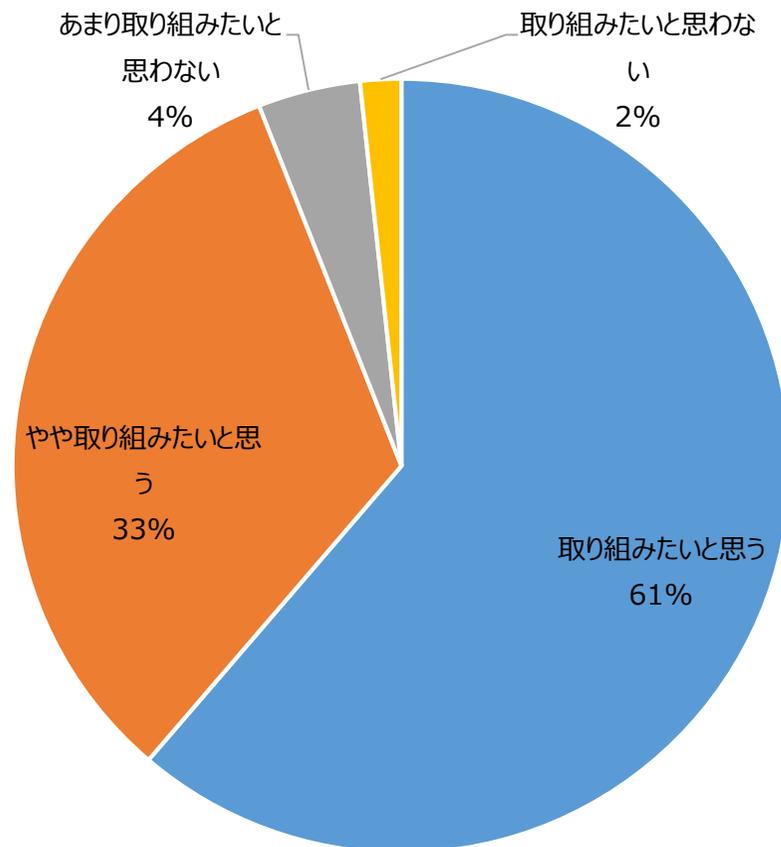
廃食油回収実証事業の重要性及び取組意欲に関する設問①

- 県が実施予定の家庭用使用済み天ぷら油の回収実証について重要だと思うと答えた人は、**約9割（89%）であった。**
- 「循環型経済」に取り組みたいと思う、やや取り組みたいと思うと答えた人は、94%であった。

廃食油回収実証の取組の重要性



「循環型経済」に取り組みたいと思うか

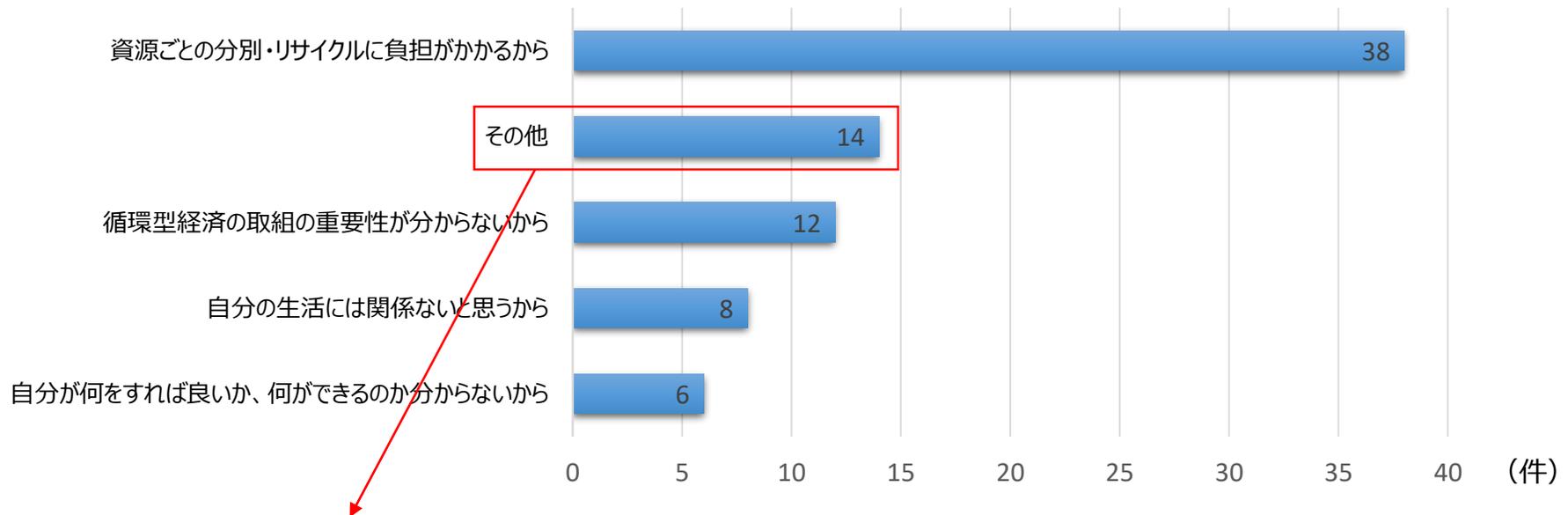


循環型経済に取り組みたいと思わない理由

- 循環型経済に取り組みたいと思わない理由について、「資源ごとの分別・リサイクルに負担がかかるから」が最も多かった。
- その他回答では、「どのように処理されたかわからないから」、「家族の協力が必要になるから」というような回答があった。

「循環型経済」に取り組みたいと思わない理由

(n=63)

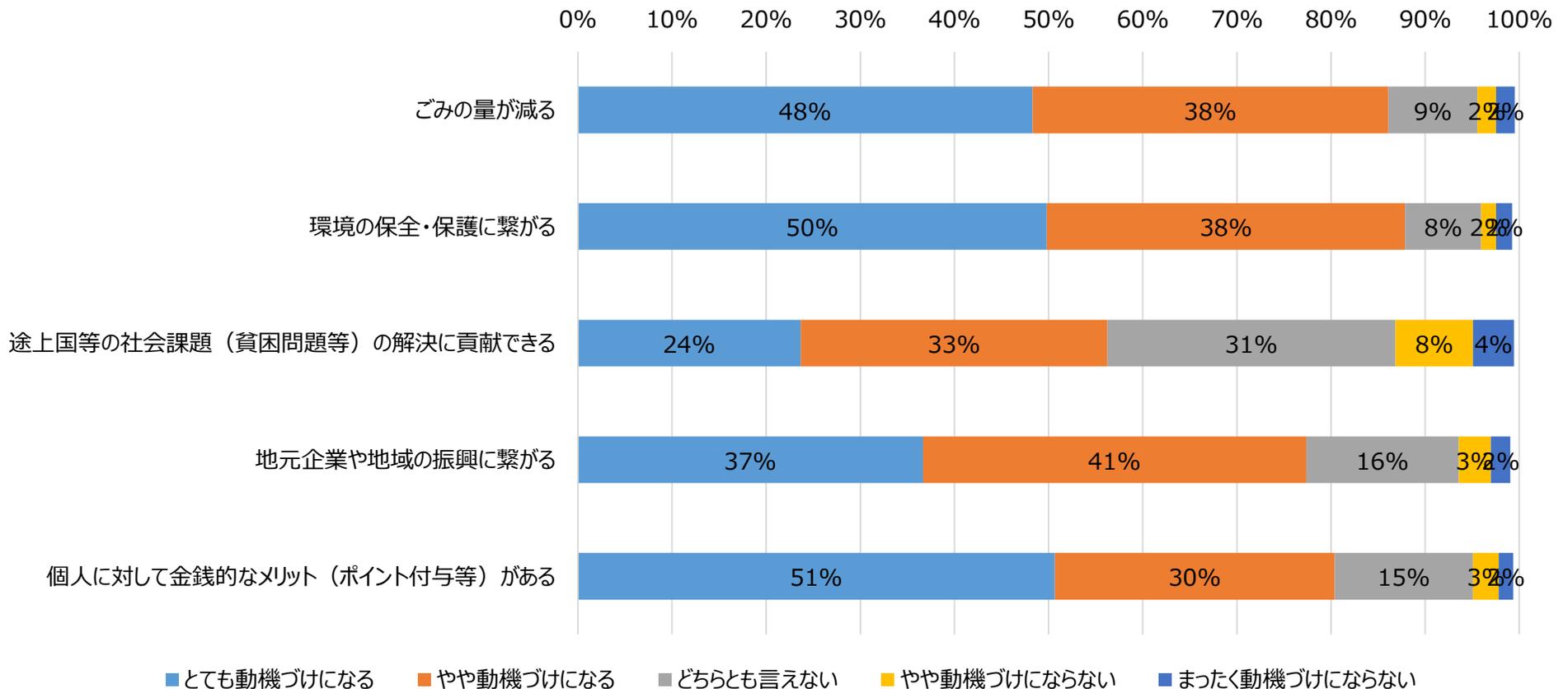


- どのように処理されたかわからないから
- 家族の協力が必要になるから
- 循環型経済を行うために別の資源を使用することになり、結局のところ何を行っているのかわからなくなるから
- 特定の少数の品目だけを循環することが大きな意味での「循環型経済」と言えるのか疑問
- 各家庭で貯めて、指定された所まで持って行く負担が大きい、初めは興味で協力出来ると思うが継続出来ると思わない

動機づけに関する設問

- 循環型経済の実現に向けた取組の動機づけとしては、「ごみの量が減る」、「環境の保全・保護に繋がる」、という内容がとても動機づけになる、やや動機づけになるという回答の割合の合計は、90%近い。
- また、「個人に対して金銭的なメリットがある」という割合もとても動機づけになる、やや動機づけになるという割合の合計が81%であった。

「循環型経済」の実現に向けた取組を行うにあたってどのような内容が動機づけになるか



循環型経済の推進についての自由記載①

- 県が行う循環型経済や資源循環社会づくりの推進について、約200件の自由記載があった。
- 利便性やインセンティブ付け、事業化や回収量に関するものなど様々な意見があったが、特に情報発信に関する意見が目立った。

廃食油回収の取組に賛同する意見

- 油の処理に毎回悩んでたので進んで参加したい
- 家で捨てている油が役に立つとは夢がある
- 油の処理が面倒であり油を大量に使用する料理ができていないが、回収の取り組みがあるのであれば、廃棄の心配なく調理できるようにするため、ぜひ取り組みを広げていただきたい
- この取り組みをきっかけに、和歌山の良さをもっと全国に知ってもらえるチャンス

周知広報、情報発信に関する意見

- 企業や地域住民の協力が不可欠な取組であり、どう誘導していくかが重要
- 地元企業と協力して県全体で取り組む仕組み作りはもちろん、制度の周知が課題である
- とても良いものなのに認知度が低いのが残念、大型商業施設に人が多く集まるタイミングで、情報発信イベントをしてほしい
- 個々人の活動が何に活かされていくのか見える化されると良い
- 取組みの内容については大いに賛成であるし、重要な事であると認識しているが、まだまだ県民への周知徹底は図られていないように思われるので、更なる広報活動が必要であると思われる。
- 行動経済学を取り入れて、天ぷら油の回収などに参加する方が楽しくなる仕組みを考えてほしい
- 県立学校の社会見学や学習にも取り入れてみんなで推進していただきたい
- 小中学生にも分かるような周知活動（草の根活動）も大切だと思う。

循環型経済の推進についての自由記載②

利便性に関する意見

- 回収の場が増えれば、県民も協力しやすい
- 普段利用しているスーパーや施設での回収の方が利便性が高く、協力してもらいやすいと思う
- 油を回収する場所が家から近ければ利用したいと思うが、遠いと利用はしないと思う
- 回収日を決めないでほしい。回収日を持つのではなく、捨てたい時に捨てたい
- 便利で手間のかからない回収方法であれば続けて行けると思う

インセンティブ付けに関する意見

- 天ぷら油をスーパーに持って行くことにも手間が掛かるので、ポイント付与のようなインセンティブがなければ普及しないと思う
- ポイント制にすることで市民の意識が変わると思う
- ポイント制はゲーム感覚でできるので良いと思う

事業化や回収量に関する意見

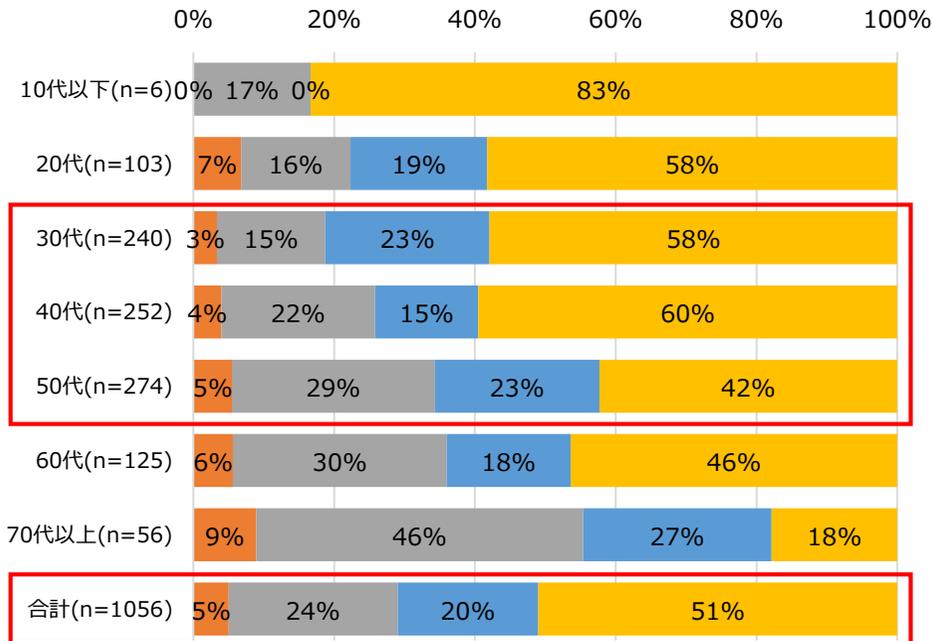
- 食用廃油の排出量は、家庭よりも事業所の方が圧倒的に多いのではないか
- 県民一人一人に呼びかけても、効率よく加工できるだけの量が集まるかは心もとないとも思う

(参考) 世代別クロス集計結果

循環型経済の認知度に関する設問

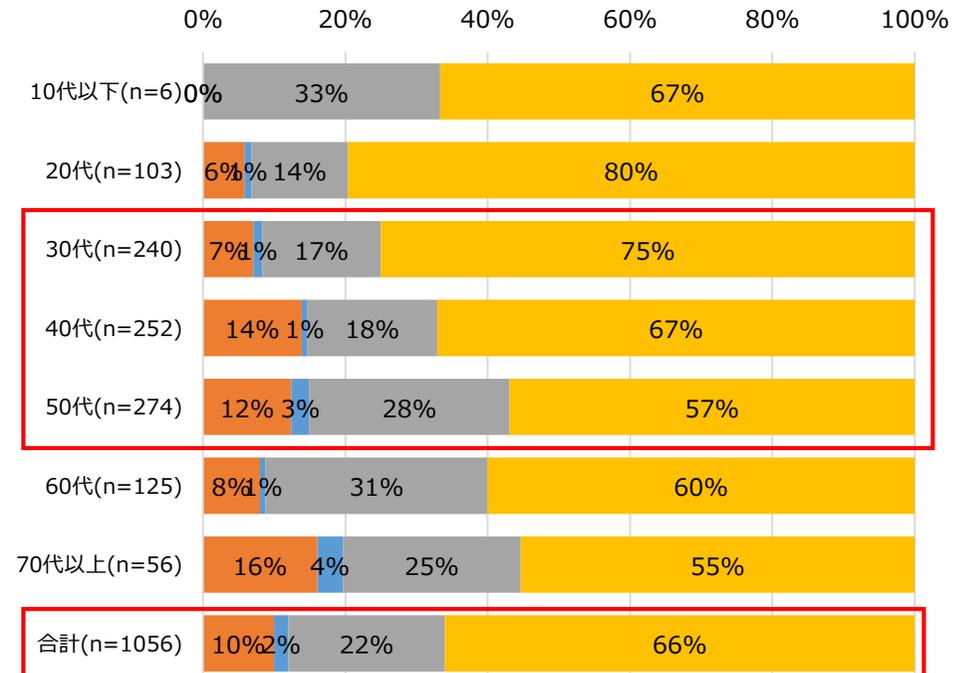
- 「循環型経済」について知ってるか、県の「循環型経済」の実現に向けた取組については、いずれも世代の間で知っていた割合に大きな差はない。

「循環型経済」について知っているか



- 言葉も意味もよく知っており、内容を人に説明できる
- 言葉を知っていて、意味もある程度知っている
- 言葉の意味は聞いたことがあるが、理解できていない
- 今回のアンケートで初めて知った（これまで聞いたことがなかった）

県の「循環型経済」の実現に向けた取組を知っているか

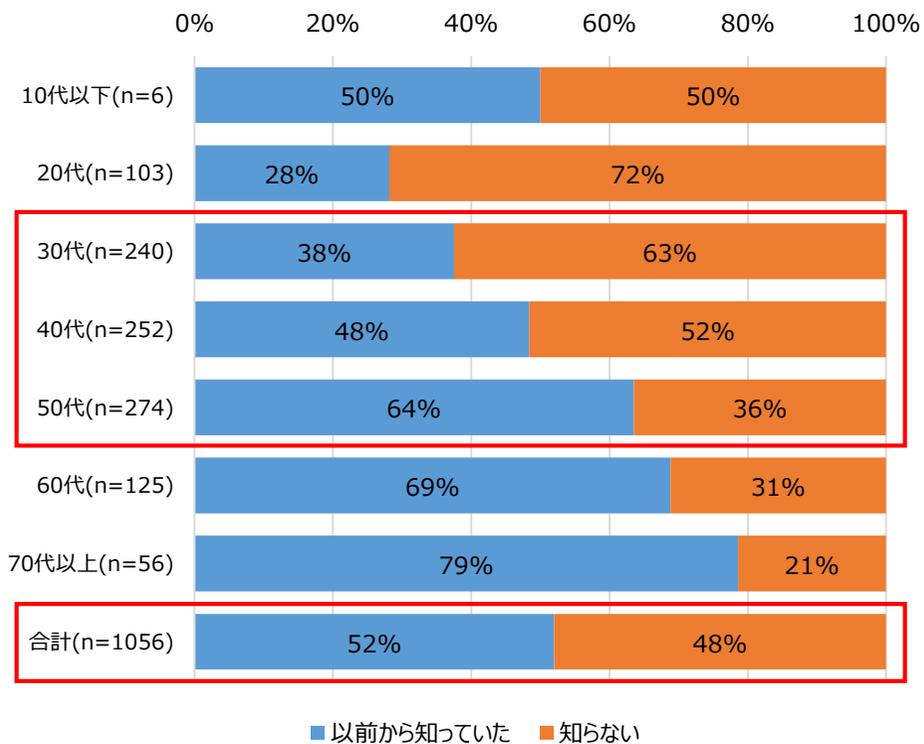


- ①も②も知っている
- ①のみ知っている
- ②のみ知っている
- 今回のアンケートで初めて知った

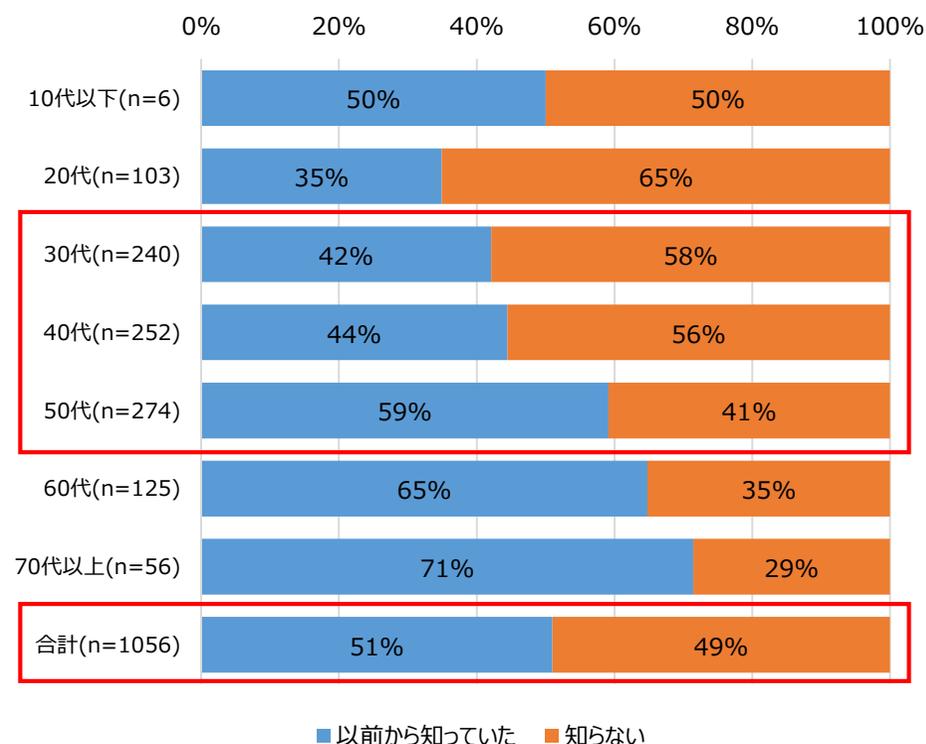
使用済み天ぷら油の利活用に関する設問

- 使用済み天ぷら油が飛行機の燃料になること、ENEOS和歌山製造所のSAF製造拠点計画については、年齢が上がるにつれて以前から知っていたと回答した割合が高くなっていった。

使用済み天ぷら油が飛行機の燃料になることの認知



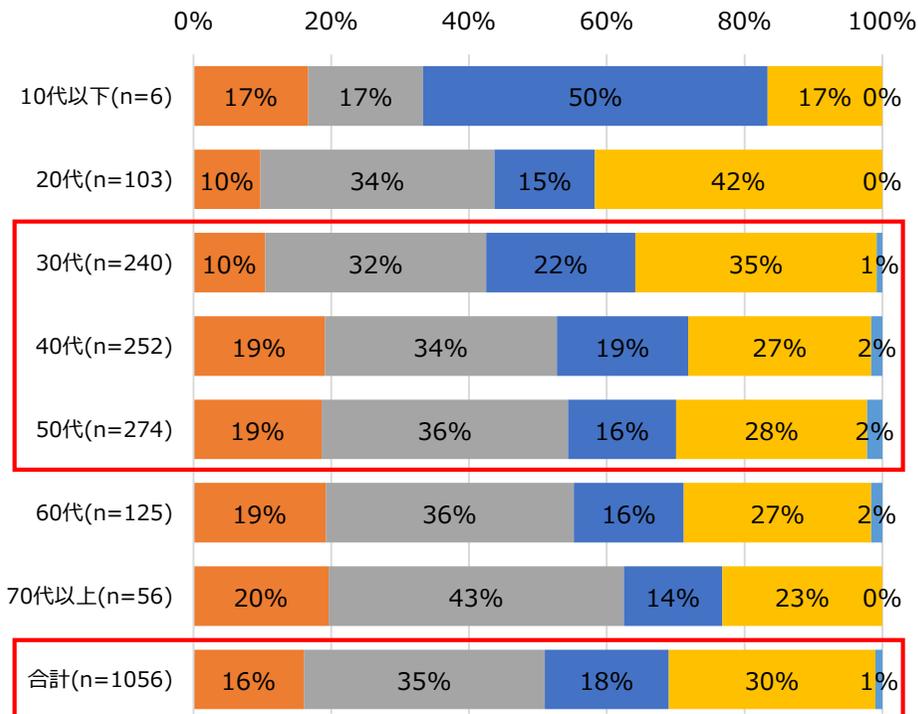
ENEOS和歌山製造所のSAF製造拠点計画の認知



天ぷら油の利用頻度及び処理に関する設問

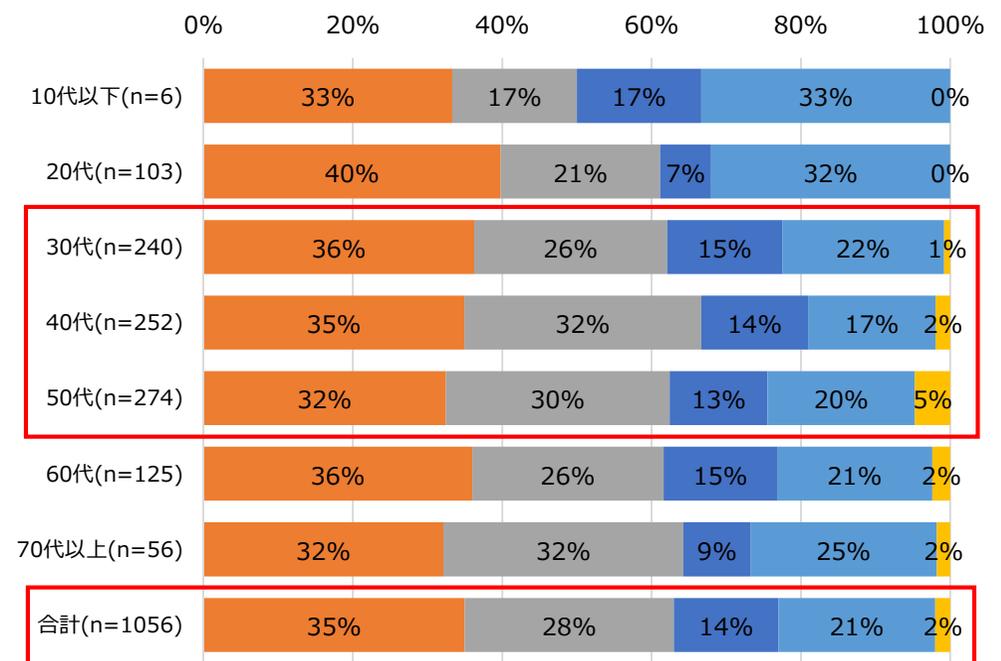
- 天ぷら油を使う料理をする頻度としては、40代、50代では週に1回以上と回答した割合がやや高い結果であった。
- 使用済み天ぷら油の処理方法は、世代の間で大きな差はない。

天ぷらなどの油を使う料理をする頻度



■ 週に1回以上
 ■ 月に2・3回程度
 ■ 2・3カ月に1回程度
■ ほとんど行わない
 ■ その他

使用済み天ぷら油の廃棄／リサイクル方法

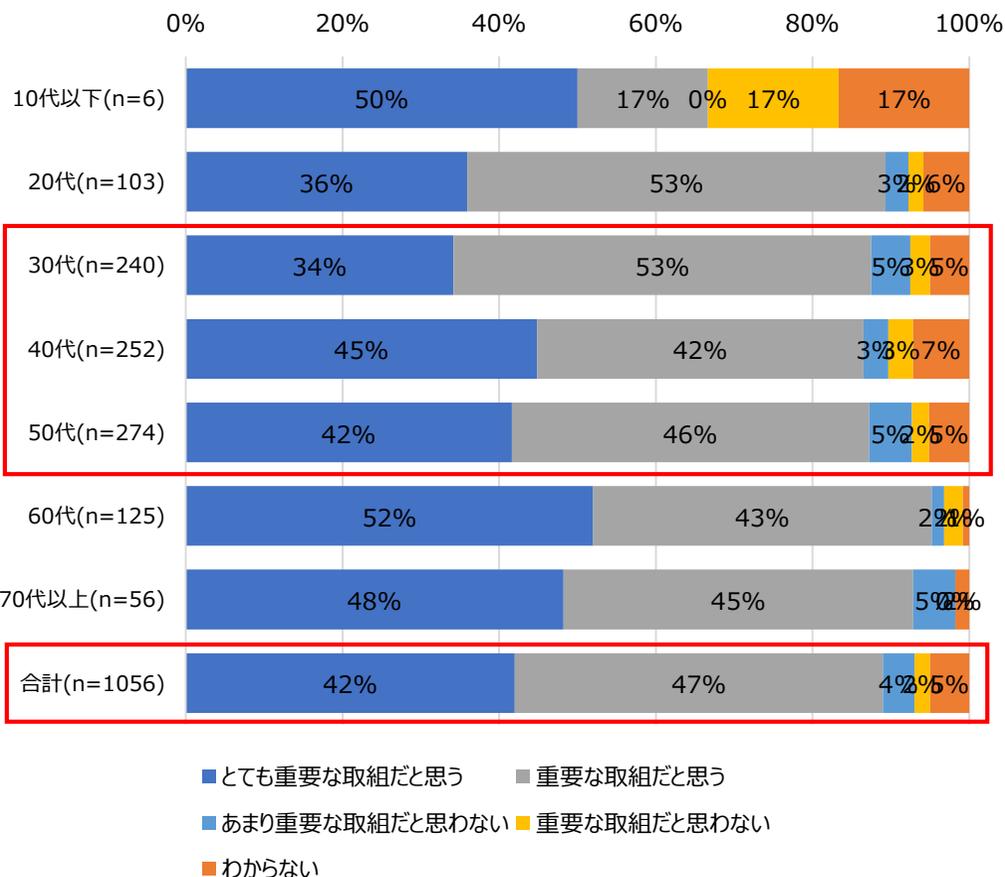


■ 紙や布にしみこませて、一般ごみ・可燃ごみとして捨てている
■ 市販の凝固剤などで固めてから、一般ごみ・可燃ごみとして捨てている
■ オイルポットなどで保存し、炒め油などに再利用する
■ 家で大量の油が出るような料理をしない
■ その他

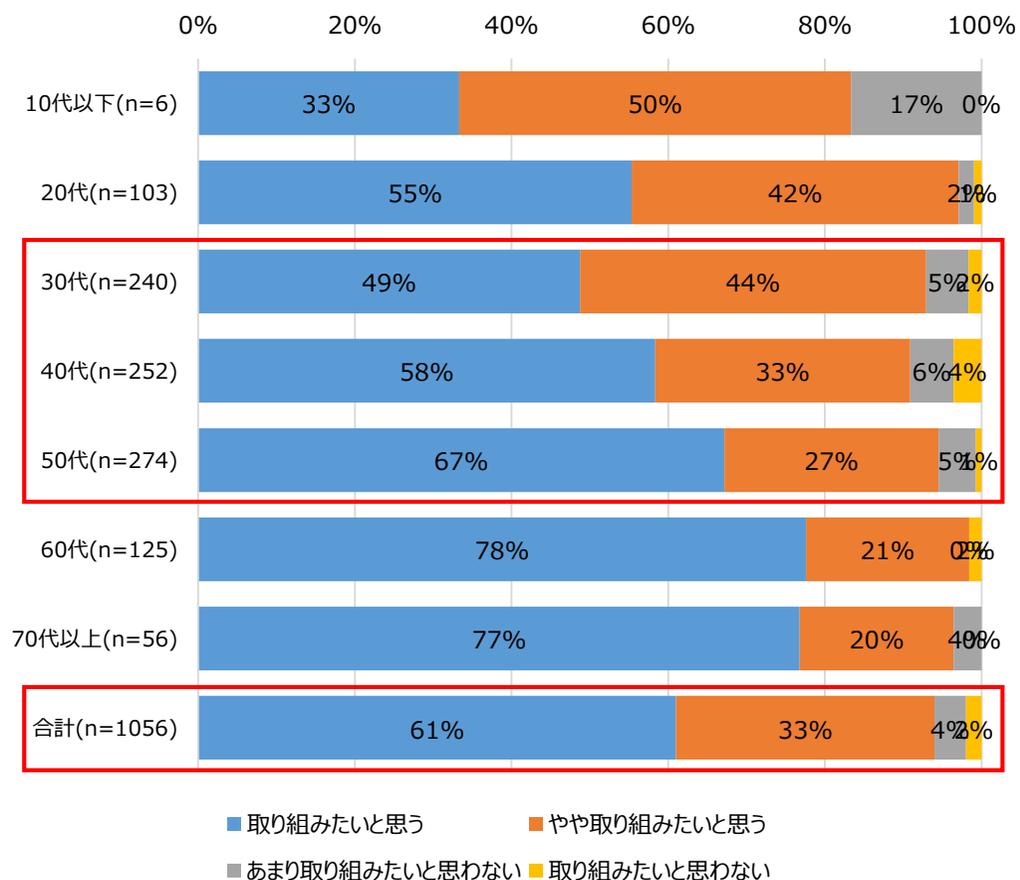
廃食油回収実証事業の重要性及び取組意欲に関する設問①

- 県の家庭用使用済み天ぷら油の回収実証の重要性、「循環型経済」に取り組みたいと思うかについて、世代の間で大きな差はない。

廃食油回収実証の取組の重要性



「循環型経済」に取り組みたいと思うか



(参考) アンケート調査表

サーキュラーエコノミー（循環型経済）に関するアンケート調査

問1. 「サーキュラーエコノミー（循環型経済）※」について知っていますか。

※ サークュラーエコノミー（以下、循環型経済という）とは、廃棄物をなくし、資源を循環させることで、自然への負荷を低減しながら新たな価値を生み出す経済の仕組みです。

環境活動としての3R（リデュース・リユース・リサイクル）は発生した「ごみ」をどうするかという解決策だったのに対し、循環型経済では、「ごみ」ではなく「資源」ととらえる考え方のもと、設計段階からごみを出さないように製品やサービスをデザインします。

- | | |
|-----------------------------|------------------------------------|
| 1. 言葉も意味もよく知っており、内容を人に説明できる | 2. 言葉を知っていて、意味もある程度知っている |
| 3. 言葉の意味は聞いたことがあるが、理解できていない | 4. 今回のアンケートで初めて知った（これまで聞いたことがなかった） |

問2. （問1で「1. 言葉も意味もよく知っており、内容を人に説明できる」「2. 言葉を知っていて、意味もある程度知っている」と回答した方にお伺いします。）

「循環型経済」を知る上で接した媒体について、あてはまるものすべてにチェックをつけてください。

- | | | | |
|---|---|-------------------------------------|----------------------|
| 1. テレビ・ラジオなどの番組（ニュース、ドキュメンタリー、インタビュー等） | | | |
| 2. 新聞・雑誌の記事 | 3. 企業による発信（イベント、製品・サービスの宣伝、ホームページ・SNS等） | | |
| 4. 国や県・市町村による広報（ポスター・チラシ・ホームページやイベント等） | | | |
| 5. 仕事上の情報・資料等 | 6. 書籍（新書・学術書・論文等） | | |
| 7. 有識者等のSNS等による発信（YouTube、メールマガジンやブログ、オンラインサロン等を含む） | | | |
| 8. 家族・知人・友人の話 | 9. 学校・大学の授業・講義等 | 10. セミナー・講演会・勉強会（所属する学校・職場以外の場でのもの） | 11. その他（具体的に： _____） |

問3. 和歌山県における「循環型経済」の実現に向けた以下の取組について知っていますか。

- ① 「わかやま資源自律経済ビジョン」の策定（R5.10）
- ② 県とENEOS株式会社、花王株式会社及びサントリーホールディングス株式会社との間の「和歌山県におけるサーキュラーエコノミーの実現に関する包括連携協定」（R6.1.10）

- | | | |
|--------------------|-------------|-------------|
| 1. ①も②も知っている | 2. ①のみ知っている | 3. ②のみ知っている |
| 4. 今回のアンケートで初めて知った | | |

問4. 和歌山県の「循環型経済」の取組をより多くの県民に理解していただくために、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものすべてにチェックをつけてください。

- | | |
|--|-----------------|
| 1. テレビ・ラジオなどの番組で取り上げてもらう | 2. 新聞・雑誌で記事にもらう |
| 3. 企業による発信を強化する（イベント、製品・サービスの宣伝、ホームページ・SNS等） | |
| 4. 国や県・市町村による広報を強化する（ポスター・チラシ・ホームページやイベント等） | |
| 5. 和歌山における循環型経済に関係する製品・サービスであることを分かりやすく明示する | |
| 6. 書籍（新書・学術書・論文等）に事例を取り上げてもらい、多くの人に読んでもらえるよう発信する | |
| 7. 有識者等の SNS 等で発信してもらう（YouTube、メールマガジンやブログ、オンラインサロン等を含む） | |
| 8. 学校・大学の授業・講義等の場で紹介する | |
| 9. 一般の県民向けのセミナー・講演会・勉強会を実施する | |
| 10. わからない | |
| 11. その他（具体的に： | ） |

問5. 家庭から出た使用済み天ぷら油をリサイクルすることで、CO2 を減らす効果が大きい飛行機の燃料にすることができていることを知っていますか。

- | | |
|--------------|---------|
| 1. 以前から知っていた | 2. 知らない |
|--------------|---------|

問6. ENEOS 和歌山製造所（有田市）で、使用済み天ぷら油から飛行機の燃料（SAF；サフ）を製造する拠点となる計画があることを知っていますか。

- | | |
|--------------|---------|
| 1. 以前から知っていた | 2. 知らない |
|--------------|---------|

問7. ご家庭で天ぷらなどの油を使う料理をする頻度はどの程度ですか。

- | | | | |
|--------------|-------------|---------------|-------------|
| 1. 週に1回以上 | 2. 月に2・3回程度 | 3. 2・3カ月に1回程度 | 4. ほとんど行わない |
| 5. その他（具体的に： | ） | | |

問8. 現在、使用済み天ぷら油はどのように廃棄・リサイクルしていますか。最も頻度の高いものを1つ選択してください。

- | | |
|-------------------------------------|---|
| 1. 紙や布にしみこませて、一般ごみ・可燃ごみとして捨てている | |
| 2. 市販の凝固剤などで固めてから、一般ごみ・可燃ごみとして捨てている | |
| 3. オイルポットなどで保存し、炒め油などに再利用する | |
| 4. 家で大量の油が出るような料理をしない | |
| 5. その他（具体的に： | ） |

問9. 和歌山県では R6 年度に、家庭用の使用済み天ぷら油回収実証事業（※）を実施予定です。この取組についてどう思いますか。

※ 県では、循環型経済の実現に向けた取組の第一弾として、現在のごみとして捨てられている家庭用の使用済み天ぷら油を回収し、持続可能な航空燃料の原材料へと資源化する仕組みの構築を目指します。

◆ 回収方法：

実証に参加いただける方に専用の繰り返し使えるボトルを配布しますので、そのボトルに使用済み天ぷら油を入れて、スーパーや公共施設に設置された回収拠点に持参いただき、ボトルごと受け取ることを想定しています。

◆ 実施エリア：

和歌山市、海南市、有田市（回収拠点が当該エリア内というだけで、参加者の居住要件ではありません。）

- | | | |
|-----------------|--------------|-------------------|
| 1. とても重要な取組だと思う | 2. 重要な取組だと思う | 3. あまり重要な取組だと思わない |
| 4. 重要な取組だと思わない | 5. わからない | |

問10. 「循環型経済」を実現するためには、上に書いた天ぷら油の回収やペットボトル、衣類の回収等、消費者一人ひとりの協力が不可欠になります。あなたは「循環型経済」に取り組みたいと思いますか。

- | | |
|-------------------|----------------|
| 1. 取り組みたいと思う | 2. やや取り組みたいと思う |
| 3. あまり取り組みたいと思わない | 4. 取り組みたいと思わない |

問11. （問10で「3. あまり取り組みたいと思わない」「4. 取り組みたいと思わない」と回答した方にお伺いします。）取り組みたいと思わない理由にあてはまるものすべてにチェックをつけてください。

- | |
|-------------------------------|
| 1. 循環型経済の取組の重要性が分からないから |
| 2. 自分が何をすれば良いか、何ができるのか分からないから |
| 3. 自分の生活には関係ないと思うから |
| 4. 資源ごとの分別・リサイクルに負担がかかるから |
| 5. その他（具体的に： _____) |

問12. 循環型経済の実現に向けた取組を行うにあたって、以下のような内容が動機づけになるか教えてください。

(あてはまる選択肢に丸をつけてください)

	とても動機づけになる	やや動機づけになる	どちらとも言えない	やや動機づけにならない	まったく動機づけにならない
ごみの量が減る					
環境の保全・保護に繋がる					
途上国等の社会課題（貧困問題等）の解決に貢献できる					
地元企業や地域の振興に繋がる					
個人に対して金銭的なメリット（ポイント付与等）がある					

問13. 県が行う循環型経済や資源循環社会づくりの推進について、ご意見、ご要望などありましたら、ご自由にお書きください。

自由記載：

お住まいの市町村	1. 和歌山市 2. その他和歌山県内（具体的に： ） 3. 和歌山県外（具体的に： ）
ご年齢	1. 10代以下 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代 6. 60代 7. 70代以上
職業	1. 個人事業主・会社経営（役員） 2. 家族従業（家業手伝い） 3. 勤め（全日） 4. 勤め（パートタイム・アルバイト） 5. 専業主婦・主夫 6. 学生 7. その他、無職
このアンケートをどこで知りましたか	1. 県広報誌（県民の友） 2. 県 SNS 3. 県テレビお知らせ番組 4. 県ホームページ 5. 市 SNS・メルマガ 6. イベント 7. その他

**アンケートは以上です。
ご協力ありがとうございました。**